



今年はひと味違う実りの秋! 今年4月から小中学生が同じ校舎で生活を始めました。昼休みに小学生と中学生と一緒に体育館やグラウンドを走り回って遊んでいる姿や、中学生に駆け寄って話しかける小学生、その目の高さに合わせて身をかがめて話をする中学生の姿、転んで怪我をした小学生を保健室まで連れて行く中学生の姿を幾度となく見かけました。同じ校舎で生活している中でしか味わえない貴重な体験が、ごく自然な形で日常的に行われ、子どもたちの成長に良い影響を与えていると感じています。中学生を目標に頑張る小学生と小学生を温かく受け入れながら手本となるべくさらに頑張る中学生の姿に明るい下北山村の未来が見えてきそうです。新学習指導要領では実現すべき教育成果の一つとして、「人間性の涵養」が挙げられています。涵養とは自然に水がしみこむように徐々に教え養うことを意味しますが、私はワインが熟成していくようなイメージをもっています。下北山小中学校という樽の中で9年間という長い時間をかけて豊かな深みのあるワインに熟成してきている。これこそが今年の秋一番の大きな実りではないかと思っています。

第8回保・小・中合同運動会

10月2日(土)に第8回保・小・中合同運動会を開催しました。コロナ禍のため一般公開ではなく、村内在住の保護者・ご家族に限らせていただきましたが、当日は45名の方にご観覧いただくことができました。保・小・中の園児・児童・生徒が一堂に会し、それぞれが頑張ってきた成果を発表するこの合同運動会は、下北山村の子どもたちにとって大変意義のある行事だと思えます。一人一人が去年の自分より成長した姿を競技や演技の中で表現し、その姿をお互いに認め合えた一日でした。その中でも今年のソーランはひと味違いました。同じ校舎で生活しているからこそできてきた心のつながり、絆が現れた演技でした。本来であれば大きなかけ声で盛り上げ踊るソーランですが、コロナ禍のため声を出さず、その分、足先の指先まで伸縮を働かせて心をもひとつにして踊りきってくれました。特に中学3年生は見事な集中力とその気迫あふれる演技でリードし、全員をまとめてくれました。



今年までは中学校は9月に文化祭、小学校は11月にさわやか発表会の発表をしていましたが、今年からは「さわやか文化祭」の発表を兼ねて10月24日(日)に行いました。コロナ禍のため入場人数制限を設けざるを得ずご迷惑をおかけしましたが、ご協力のおかげで無事に終了することができました。発表は小学生による和太鼓の体の芯にまで響いてくる迫力ある演奏で始まり、各学年が学んだことをICTを使ってクイズ形式で発表したり、オリジナルの劇の中で学習の成果を披露したりと、学年の個性が感じられる発表でした。中学生によるクイズ、器楽合奏や生徒全員による合唱、有志による発表は中学生らしいステージで、一人一人の個性が存分に発揮された素晴らしいパフォーマンスでした。最後は児童生徒全員による「しあわせになあれ」の合唱で、感謝の気持ちを伝えながら締めくくりました。

11月 行事予定(共通) 小学校 中学校

- 1日(月)
- 2日(火)
- 3日(水)
- 4日(木)
- 5日(金)
- 6日(土)
- 7日(日)
- 8日(月)
- 10日(水)
- 11日(木)
- 12日(金)
- 15日(月)
- 16日(火)
- 18日(木)
- 19日(金)
- 22日(月)
- 23日(火)
- 24日(水)
- 25日(木)
- 29日(月)
- 30日(火)

「しあわせになあれ」 弓削田健介/作詞・作曲
目を閉じて繰り返す あなたがくれた名前
懐かしい声をする 愛してくれた人たち
光あふれた朝に 願いを込めて
あなたが授けてくれた 愛の唄が聴こえる
「しあわせになあれ」 僕の名前から消えないメロディ
心通った友の 笑顔が浮かぶ
名前を呼ばれる度に 僕は僕に出会った
「しあわせになあれ」 優しい祈りに守られながら
「しあわせになあれ」 僕の名前から消えない祈り

秋の遠足 10月26日(火)に小学校の秋の遠足を実施しました。1・2年生はうだ・アニマルパークへ、3・4年生は熊野方面へ、5・6年生は村内一周約20kmを歩ききりました。みんな短い秋を感じ楽しみながらよく頑張りました!

公益財団法人「みずほ教育福祉財団」より図書を寄贈していただきました。「小さなひとりの大きなゆめ」(全5巻)、「ダーウィンが来た!」(全6巻)、「お札になった偉人たち新紙幣ウラオモテ」(全3巻)。「どこにいる?だれがいる?さがせ!日本の歴史」の4種類、計15冊です。ありがとうございました。大切に活用させていただきます。